

令和7年10月教育委員会定例会会議録

日時 令和7年10月27日（月）
午前10時00分開会
場所 波佐見町役場 委員会室

出席者：森田教育長、山下委員、馬場委員
富木委員、松尾委員
事務局：林田次長

- ・ 出席者確認 渡邊指導主事欠席

1. 会議録署名委員氏名

馬場委員、富木委員で了承されました。

2. 前回会議録確認

3. 報告事項

(1) 教育委員会

9・10月事業報告、及び10・11月予定について

(2) 学校給食センター

9・10月事業報告、及び10・11月予定について

(3) その他

【会議録】

3. 報告事項

5. その他

森田教育長

それでは、3の報告事項について、次長からお願いします。

林田次長

(1) 教育委員会に伴う9・10月事業報告、及び10・11月予定について別紙資料をお開きください。

【資料により説明】

林田次長 (2) 学校給食センターに伴う9・10月事業報告、及び10・11月予定について別紙資料をお開きください。

【資料により説明】

森田教育長 先ほど話題に上がった郡中駅伝の予選についてですが、今年の参加チームが1チームのみであった点に関して、中学校へすでに働きかけを行っています。東彼杵中のように小さな学校でも男女とも3チーム出場している例もあるため、せっかく陸上部の子どもたちがいるのなら、教育的な見地から、BチームやCチーム、あるいはオープン部でも構わないので、練習の成果を発揮できる場を設けてほしかったと考えています。例年2チーム以上の参加がありましたので、今回は結果こそ良かったものの、参加状況については議論の場を持っています。

なお、男子チームについては、持ちタイムがかなり優秀です。1時間を切る自治体や中学校はそう多くありません。昨年度は東彼杵中が2位になり九州大会に初出場しましたが、今回はその記録よりもさらに良い記録が出ています。県大会の常連校もいる中で、なんとか入賞を果たしてくれることを期待し、当日は応援に行きたいと思っています。

森田教育長 持ち寄り議題は後ほど行いたいと思いますが、その他の1、波佐見町総合教育会議の日程調整について、提案をお願いします。

林田次長 式次第5のその他として波佐見町総合教育会議が挙がっております。昨年は11月末頃に開催されました。つきましては、今後、町長等との調整もごございますので、後ほど教育委員の皆様との間で日程調整を図りたいと考えております。ご都合が悪い日などを事前に確認させていただけると助かります。LINEの方でも調整を図りたいと思いますので、その際にご協力よろしくお願いたします。

森田教育長 総合教育会議について、何かお尋ねはございませんでしょうか。日程調整については、次長から各委員の皆様を確認をいたしますので、ご協力をお願いいたします。

森田教育長 その他のその他ですが、全学力調査・見学力調査の資料として、学力調査の部分について、渡邊指導主事の方で結果を一覧化したものを準備しています。

赤字の部分が多いことからわかるように、残念ながら今回も大変厳しい結果となりました。様々な施策や環境整備を行ってはいるものの、まだ結果として成果が出てきていないのが現状であり、私自身も反省しています。学校現場でも具体的な取り組みは行っていますが、数値化された成果が出ていないのが大きな課題です。

もちろん、この後には学力向上推進委員会でこの結果を分析し、方策について協議します。また、ICT活用推進委員会でも、ミライシード等の

デジタル機器を有効活用し、基礎学力の定着や発展的な学習に向けた取り組みを確認しているところであり、期待を寄せています。

先日、学力向上推進委員会を行った際、中学校の研究主任の発言が、今の波佐見町の現状をよく表していると感じました。ベネッセの標準学力調査は年2回（4月と12月または1月）実施しており、4月は前学年のまとめを、12月または1月は今の学年の学習内容の理解度を測るテストとなっています。一昨年の2学期からこれを年2回実施していますが、4月の調査では「普通よりやや低い」状況から、12月・1月には成績が向上しているという現状はあります。

ただし、個人の伸びや学年単位での向上は見られるものの、県や全国の平均に比べるとまだ到達していません。個人の伸びはあるが、まだ県レベルまでは達していないというのが、3小学校1中学校の児童生徒の現状です。当然、そのことが県学力調査・全学力調査の数値的な結果が思わしくない要因であると考えています。この結果を重く受け止め、今後、具体的な対応策を実行し、少しでも数値的な変容が見られればと考えています。見学・全学力テストについてのご意見やお尋ねがありましたら、お聞かせください。

森田教育長

先週、研究主任の先生方のみが集まり、「波佐見町の学力がなぜ低いのか」をテーマに意見交換会を行いました。その議事録を見たのですが、私としては少し残念な意見交換内容でした。まとめると、保護者の意識がとても低いという意見が多く出ました。「何とかなるさ」「勉強があまりできなくても慌てることはない」という意識が強く、例えば、宿題や生活習慣、早い就寝、スマホ等の扱い方についても、あまり厳しく言わない傾向があるとのこと。つまり、保護者の意識が学力向上などにあまり向いていないのではないかという意見がありました。保護者の協力が弱いのではないかという部分があり、もしそれを一因とするならば、学校としてそれはよろしくないのではないか、今後話をしようとは思っています。

しかし、学校の研究主任の意見としては、保護者の意識が低いという点が最大公約数で最も大きな要因とされました。その他には、低学年・中学年の頃に支援を要する児童への対応に時間が割かれ、他の子たちの基礎学力が身につけていない状況が見られるという指摘もありました。通常学級に支援を要する児童の割合が増え、担任や支援員の支援が回る際に、学級全体の落ち着きや基礎学力の定着に支障を来している側面はあるのかもしれませんが、これは波佐見町だけの傾向ではないはずですし、波佐見町はそのために支援員も多く配置しているわけですから、原因探しに終始せず、「だからどうするのか」という議論に焦点を移してほしいと思っています。

現在の状況ですが、A小学校の6年生がかなり厳しい結果です。この学年は、先述のように低学年の頃に支援を要する児童がいて、学級がざわついた時期があり、基礎学力が2・3年生の時についていないという実態があります。これは数年前のB小学校の状況によく似ています。何人かの児

童が授業を乱し、それに皆が引きずられてしまった形です。母数が多い学校は、全体を下げてしまう結果となっています。

B小学校・C小学校の6年生も予想外に厳しく、特にB小学校は雰囲気落ち着き、学力も向上していると思っていたのですが、思ったほど上がっていません。A小の分をカバーするほどではなかったため、全体的に下がってしまいました。B小学校は人権教育などにも取り組み、メリハリがあり集中力も高いため、全体的には落ち着いてきて学力も向上しています。C小学校は2、3年前は良かったのですが、少し傾向が下がっています。A小学校は残念ながらずっと低い位置で推移しており、再考が必要です。小学校で厳しい状況が、中学校に行くとやっと県平均に到達しているというのが、ここ数年の波佐見町の現状です。

松尾委員

保護者の視点ですが、今の5、6年生の子どもたちは、コロナ禍による休校・休園の時期（幼稚園の時期）が影響している可能性もあるのではないかと思います。「黙って座っていることができない」という点にもその影響があるかもしれません。

また、保護者の意識の問題は、おそらくずっとテーマであり、その割合が増えるか減るかの問題でしょう。波佐見町内での印象として、「うちの子は全然勉強しない」「宿題をしない」「学校を簡単に休む」ということを口にする保護者が多いと感じます。それを何か堂々と言っても恥ずかしくない、という意識が大人の側になくことが問題ではないと感じます。

森田教育長

ありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。

富木委員

松尾委員のお話の中で、平然とそういったことを口にするによって、ほかの保護者が「安心」してしまうということですか。

馬場委員

以前も聞いたと思いますが、この学力調査の報告は、保護者には集団としての全体評価は伝えていないのですか。

森田教育長

全体評価としてはそこまでは出しません。ただし、個人の結果は全て開示し、必ず返却します。個人の結果を見れば、自分が県平均と比べてどうかということは分かるようになっています。

馬場委員

平均は分かるわけですね。そこが分かっていたら、親御さんも多少意識し、差を感じるかもしれません。娘も中学校で支援に関わっていますが、とにかく子どもたちが勉強しないといつも言っています。家庭学習ができていないのが、やはりこういった成果に表れているのかなと感じています。「みんながやってないから」という安心感があるのかなとも感じます。保護者との関係、そこが課題であると捉えています。

山下委員

保護者の意識も重要ですが、先生方の授業展開の仕方にもあるのではな

いでしょうか。子どもたちが興味を持って授業に取り組めるよう、例えば国語の授業の中に、数学や社会といった他の得意分野に繋がる要素を入れるなど、何かしらの工夫があれば、子どもたちの興味も変わってくるのではないかと感じます。私が理科を好きだったように、興味があることに集中できるものです。どの先生も、子どもたちを引き出すような授業を展開できるような、校内での研究を進めていけたら良いのではないかと思います。

森田教育長

今、3人の委員がおっしゃった話題は、先週、県の教育長、郡市全ての教育長と県の役職者が集まり、学力向上と英語力向上をテーマに議論した際にも、全く同じことが議論されました。結局、県全体の学力が定着しない大きな理由の一つが、まず授業改善です。ICTが導入されても有効活用ができていないなど、学校全体の授業改善ができていないのではないかとというのがまず一つ目。二つ目が、家庭学習が全く足りていないこと。最終的には、先生方の学級経営の力だよね、という話に落ち着きます。これは30年前も40年前も言われていたことで、長崎の学力がなかなか30番代後半から上がらないのは、もしかしたら様々な施策をやりすぎているのかもしれませんが、やはり先生方の努力と、家庭の協力が改めて重要だと感じています。

他市町から波佐見に来た職員も、やはり「子どもたち、保護者の勉強に対する意識が低い」と言います。「勉強ができなくても何とかなる」という意識が、子どもたちや保護者の中に根強くあるようです。教育環境の整備は、波佐見町は非常に行っているのですが、それに対する「当たり前」という意識や、自浄努力の不足、意識の低さが指摘されます。ただ、子どもたちは素直なので、働きかければ伸びるはずだと私自身は思っています。

松尾委員

後の持ち寄り議題で聞きたいと思っていたのですが、公立の義務教育学校（小中一貫校）がニュースに上がっており、長崎県の野母崎や高島にもあると知りました。これはかなり前からあるものなのか、また、学力向上や学校運営の違い、思い切って9年間を一並びとするメリットやデメリットについて、見解をお聞かせいただきたいです。

森田教育長

義務教育学校にしても小中一貫にしても、スタートは、小さな学校の統廃合を兼ねている部分が現状では多いです。郡部や島部の児童生徒数が減少したため、単に学校をなくすのではなく、統廃合によって連携性を持たせようという動きから始まっています。学力や不登校対策の観点もありますが、義務教育学校については、今、モデル校が少しずつ広がっている段階で、まだ明確な成果や結果は出ていないのが現状です。

1年生から9年生までとなり、現在の6・3制を4号制などのくくり方で、メリットとしては、中1ギャップの解消や、中学校の専門の先生が小学校の授業を教える乗り入れ授業などがあると考えられます。ただ、現場からすると、例えば小学校の5・6年生が最高学年として発揮する力が、

小中一貫では中学年ぐらいの位置づけになってしまい、活躍の場が減るというデメリットもあります。広がっていかない理由もそこにあります。今後、学力や不登校対策等でかなりの成果が出れば、もしかしたら進んでいくかもしれませんが、今はまだスタートの観点が異なるため、メリット・デメリットについてはっきりしたものが分からないというのが現状です。

波佐見町内の児童生徒数は、しばらく少なくとも5年間は横ばいですが、10年後には東小学校が70人台、中央小学校が300人台になり、合わせても今の中央小学校より少なくなります。その時を考えると、2小学校1中学校というのが10年後の姿ではないかと考えています。ただ、波佐見町のコンパクトさを考えると、スクールバスの導入などが当たり前になれば、小中一貫・義務教育学校という選択肢もなくなってしまうかもしれません。しかし、現時点では2小1中が波佐見町らしいのではないかと考えています。

ほかにございませんでしょうか。

森田教育長

そういう点では、12月または1月に行われるベネッセの2回目の標準学力調査は、私も非常に興味を持って見えています。この結果を次につなげなくてはなりませんし、ミライシードやデジタル機器をうまく使って、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化を図ることが大きな課題となるでしょう。

今、学校現場には、専門家を招き、具体的な使い方に焦点を当てた学校単位での研修を依頼しています。基礎学力がまだついていない子には基礎学力を、応用力を求めたい子には応用力を高められるような発展的な問題に取り組ませることができるアプリやソフトが十分にあるので、それを有効活用していきたいと期待しているところです。

また、学級経営という観点で考えたとき、若手・中堅だけでなく、ベテランの先生でも学級経営が苦手な先生もいらっしゃいます。以前、指導力のある先生方がいらっしゃいます。私たちは放課後の時間を「黄金の時間」と呼んで、そういった先輩方の授業を学んだり、意見交換をしたり、悩みを相談したりして切磋琢磨していました。しかし、今の働き方改革という名のもとに残業ができなくなっているため、先生方が早く帰るように促され、そうした先輩とのディスカッションや切磋琢磨する時間がなかなか取れなくなっています。これが、独りよがりの指導になってしまう原因の一つではないかと感じています。働き方改革も、数値的なものだけを求めるのではなく、中身を大事にしながら見直す必要があるのではないかと現場も悩んでいるところです。

森田教育長

ほかにございませんか。それでは、議題のほうに入っていきます。1番について提案をお願いします。

4. 議題

(1) 準用保護（就学援助）の認定について

(2) 持ち寄り議題について

森田教育長

次に4の議題に移ります。

(1) 準用保護（就学援助）の認定について、提案をお願いします。

林田次長

レジュメに明記しておりますとおり、今回、申請は上がっておりません。

森田教育長

それでは、戻りまして議題持ち寄り議題に入ります。何かご意見等をお聞かせいただければ大変ありがたいです。

富木委員

東小学校への訪問で研究授業を見せていただきましたが、校長先生のお話の中に、東小学校でも自己本位の保護者が増えてきたという報告がありました。一部ではあるのですが、自己主張のみで周りのことを考えない保護者があり、対応に苦慮されているようです。小規模なだけに、他の保護者や何よりも子どもたちへの影響が心配されます。校長、教頭、担任の先生方、それぞれが統一した保護者対応をすることが求められると思いますが、今後東小学校の行方を少し心配しました。いかがでしょうか。

森田教育長

以前の訪問の際にも申しましたが、東小学校は小さくアットホームで仲が良いというメリットがある反面、それがデメリットになっている部分もあります。園の時代からの固定化された人間関係や力関係が、子どもにも保護者にもある傾向は、小さな学校の縮図として当然あります。

そこに、委員がおっしゃるように、様々な考え方をを持った保護者が増え、自分の子どもを中心に、自分の子どもだけを見ている部分があり、それが発言力を持つと、どうしても影響が大きくなってしまう傾向はあります。南小や中央小とはやや違うところがあると懸念しています。ただ、話せば分かる方々も多くいらっしゃるので、丁寧に協議の場や意見交換の場を設け、お互いの思いを語り合うことで、折り合いをつけながらやっていくのだろうと思っています。

このようなトラブル等があれば、学校も入り込んだ形で、チームを組んで対応するよう提案しています。担任だけで対応させるのは非常に危険ですので、必ず管理職を含めたチームで対応するようにとっています。

どの職場も同じですが、やはり若手の離職と早期退職がかなり増えてきました。以前では考えられなかったことです。50代半ばで「もういいです、限界です」という方が増えているのは、おそらく保護者対応が一番厳しくなっているからではないかと推測しています。忙しさのストレスの最も大きいところは、子どもを介しての保護者対応であり、なかなか話をしても分かってもらえない保護者の方々が増えてきたので、一人で抱え込んでしまう状況が大きくなっています。先述の働き方改革でチームでの

対応が難しくなっているところも、マイナスのスパイラルに入っている原因の一つではないかと懸念しており、私たち教育委員会としても、先生方のケアをしなければならないと思っています。

富木委員

以前中学校でも、PTAの役員会や学級全員、当事者の先生と保護者を交えて対応したことがあったのですが、そういったPTAの役員さんなどを招いての対応は今もなされているのでしょうか。

森田教育長

内容によっては、学校と保護者よりも、PTAの役員や先輩などを入れた方が、より良い解決につながる時には、そういった相談をされているようです。会長さんに入ってもらいなど、むしろ保護者の側から動いてもらった方が、良い改善につながるケースもあると思います。研修会などもそうですが、学校側からの一方的な情報ではなく、保護者の側から発信するような活動は非常に大事であり、それこそが親の教育力になっていくのではないのでしょうか。

以前と比べ、PTAの活動においても、その力が少しずつ弱くなっている、あるいは効果が薄くなっているのかもしれませんが。もう少し、自分事として親の力を発揮してもらい、親同士が切磋琢磨するような関係性や、その場づくりが必要だと考えています。意識が少しずつ弱くなっているのか、PTAを対象にした様々な活動（地域も含め）で、動員がなかなか図れなくなっていることも大きな理由かもしれません。強制的にでも参加し、そこで学びを得る機会が必要だと思いますが、今は自由参加で、したい人が主体的にしたいことだけをするという流れが主流になりつつあることには懸念を持っています。

山下委員

昨日の南小学校の「わくわくワーク」での音楽鑑賞では、息子が大変お世話になりました。息子からの感想では、1年生から6年生までの全学年が対象は初めてで、サクソフォン（サクソ）の楽器のことや歴史の話をよく聞いてくれ、演奏を始めると静かに聞いてくれて、日頃の先生方の聞く姿勢の教えが目に見えて分かったとのことでした。演奏を増やしてもよかったと思うほどだったそうです。「音楽は楽器だけでなく、体を使ってもできる」「楽しく表現できる」ことを子どもたちに伝えられたらと思ったそうです。多くの児童が自ら手を挙げて質問をしてくれ、中でも「音楽で世界を変えられますか」という大きな質問もあり、「意識が変われば世界は変えられる」と伝えたそうです。南小学校の校歌を子どもたちに歌ってもらい、それにサクソ演奏ができたことを大変嬉しく思い、少しでも音楽に興味を持ってもらえたらと願っています。自分自身も大きな学びにつながり、人のご縁や出会いに感謝し、ふるさと教育に携わることができて、ありがとうございました、という感想をもらいました。このような機会が今後も継承されれば、波佐見の子ども達の心の教育につながっていくのではないかと思います。ありがとうございました。

森田教育長

サックスで校歌を歌うという経験は、子どもたちにとって強烈に記憶に残ると思います。私たち大人というのは、子どもたちに一つきっかけや機会を提供することが非常に重要であり、その出会いや気づきが100人の中の1人でも構わないから、そういう条件や環境を与えてあげるのが私たちの仕事だと考えたとき、昨日の南小の280人の子どもたちの中に、何か一つ、自分の生き方やこれからのことを考えるきっかけになった子がいたら、とても素晴らしいものだったろうなと思いました。そういう場をいっぱい提供していきたいと痛感しました。とても素晴らしいプログラムだったと思います。

富木委員

昨日初めてわくわくデイに参加し、見学させていただきました。残念ながら一部の山下さんの演奏は聞けませんでした。二部の職場体験については、短い時間でしたが全部見せていただきました。商工青年部や企業の方の熱心な指導のもと、子どもたちも楽しく学んでいました。各ブースで参加人数に違いがあり、多いところは50名程度、少ないところは10名程度で、関心度の違いがあるのかなと思いました。私自身も以前、お茶を作りながら小学校の授業を行ったことがあります。今回はホットプレートを使って手もみしながら乾燥することをしていました。時間的に十分に乾燥することができたか、どういったお茶の味ができたのか気になりましたが、それなりにおいしいお茶ができたのだろうと思います。今、ペットボトルばかりで、お茶を入れて飲むということがありません。波佐見焼を使った急須を使い、そういった食文化を大事にしていきたいと思いました。

森田教育長

お茶は今年初めてのメニューだったのでしょうか。福田豊屋さんや美容院などは長くやっているの、他のブースに行く子もいるのかもしれませんが。これはキャリア教育としては先進的な取り組みであり、高く評価しています。県の参事になられた坂口教頭先生が担当ですので、来年は南小学校をキャリア教育の推薦校として実践校に推薦したいとお願いしてきています。今年は中学校を推薦しています。やきもの文化体験プログラムの方で、2年続けて波佐見町から出してもいいからということで、実践モデル校として上げていきたいと思っています。

山下委員

波佐見中学生の心温まる行動についてお知らせします。登校途中の中学生が、右手には可燃物のゴミ袋を持ち、回収箱へ持っていく姿を見かけました。習慣で行っているのか、親から言われて行ったかは分かりませんが、行動している事実が変わりなく、小さいことですが、家庭、家族の一員として役割を果たしていることに感心いたしました。当たり前と思うこと、何気ない行動にも目を向けて褒めてあげることで、子どもたちの生きる力につながっていくのではないかと思いますのでお知らせしました。

森田教育長

今の件については、校長教頭の方に情報提供し、その行動を認める、当

たり前のことだけど、そこはとても大事なことだと思っています。

馬場委員

昨日おとといと文化祭があり、私は展示の係で携わりました。職業体験の話も出ましたが、文化の話になると、やはりそれぞれにプロがたくさんいらっしゃいます。今回、盆栽を出された中田さんと親しくゆっくり話させていただき、盆栽の奥の深さを感じさせていただきました。三股の林君の話聞き、「自分は急須でいきたい」というポリシーを持っていらっしゃることを感じました。生け花の先生も、花にかける情熱や、自分の近くにあるものを使うという話をさせていただき、それを最大限に生かすという話も聞かせていただきました。やはり、こういった人の話をちゃんと聞く機会は非常に大切だと感じます。奥が深いなと今回つくづく感じました。

また、親子連れで見学に来られる人もたくさんいますし、片付けなども、ダンスをやっているような若い人たちが張り切って準備も片付けもしてくれて、本当にありがたいと感じます。自分の好きなどころにはみんな一生懸命ですが、やはりそういったいろんな方面に目を向けていただきたいと感じます。その姿勢を作るのはやはり親であり、なかなかそういった機会を感じる親御さんが少ないので、もう少し頑張って幅広い目で見てください。国民文化祭で人形浄瑠璃の場もあり、いろいろと続いています。そういった良い機会でもありますので、保護者の方も特に目を向けていただければ、子育てに非常に影響するのではないかと感じさせていただきました。これは私の感想です。

森田教育長

私のほうから校長会の資料についてですが、一つは、予算との絡みで、支援員さんの勤務時間を少し見直す必要があるか、学校に配布しているウォーターサーバーの利活用について再確認したり、さらにもう一つ大きな話題だったのが、学童、特に南地区にある学童について、近い将来閉鎖の方向に進んでいるところがありますので、その代替について、というところで、既存の施設を有効活用するとやはり南小学校の利用というところが保護者のニーズとしては一番大きいところがあるので、そういうことも含めた意見交換の場を設けたいということを思っています。そういった大きな話題を話し合っているものを記録として載せておりますので、読んでいただければと思います。

また、長崎県青少年劇場が、今回は各学校の4年生以上の子どもたちに落語や切り絵をさせて行いましたが、大変楽しかったということで、盛り上がっていたのはとても嬉しく思っていました。

ほかにございませぬか。それではないようですので、10月の教育委員会定例会は以上をもちまして終了したいと思います。

※次回定例会予定 総合教育会議との調整もあるため後日日程調整を行う。

令和7年10月27日教育委員会定例会会議録署名

署名
委員

馬場 清治

高木 義典